

賞状・トロフィーを受け取る受賞者(上・中)、講評する森嶋
選考委員長

11月20日に開催された第54回広島県公衆衛生大会に於いて行われた「環境啓発ポスター！標語コンクール」優秀作品表彰式の様子を報告する。

環境啓発ポスター！標語コンクールは、平成20年度から毎年行っているもので、今年度も県内から多くの作品が集まり、盛大に実施された。各市町公衛協が小中学生を対象に「私たちが住む地球を守ろう」をテーマにしたポスターおよび標語を募集

ポスター！標語の表彰式行われる 12人の児童・生徒の表彰 華々しく

ロフイーが手渡されると、緊張はほぐれ、笑みが浮かんだ。

森嶋彰選考委員長が、「今年度からテーマを変えて募集したところ、昨年度を超える多くの作品が寄せられた。どの作品も感性豊かで、すばらしいものだった。今後もこの事業のますますの繁栄に期待している」と講評を述べた。

表彰式終了後の控え室では、受賞者はトロフィーを手に取り、保護者とともに喜びをかみしめていた。受賞者にインタビューを行ったところ、「とてもうれしいです」「来年もぜひ参加したいです」といった喜びの声が聞かれた。この事業は、年を重ねるごとに応募作品も多様化し、デザインやキャッチコピーのレベルが上がって質の高い作品が多くなっている。年々、変化しつつある環境の中、この事業を通して今一度環境問題を考えるきっかけとして、今後の事業の発展を願う。(地域活動支援センター)

第54回広島県公衆衛生大会講演

若さと健康をつくるウォーキングで地域活性！ たくさん歩いて、筋力の維持を

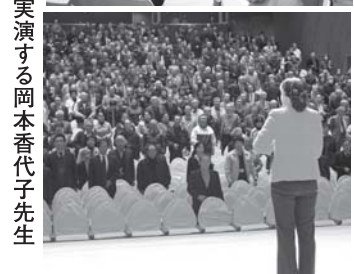
今年は「健康」をキーワードとし、公衛協で取り組みが広がっているウォーキング事業の更なる拡充をねらい、歩行研究者・京都大学非常勤講師・医学博士の岡本香代子先生にご講演いただいた。

ステージで、歩行パターンや筋肉を効果的に動かすストレッチを実演し、会場の参加者も一緒に体を動かすなど、健康づくりに視点を置いた歩き方を教わった。終始、参加型で展開され、会場からは、笑いや、なるほどと声が上ががり、大盛況のうちに終了した。講演趣旨は次のとおりである。

歩行研究者
京都大学非常勤講師
医学博士

岡本香代子 先生

生涯、自分の足で元気に歩き続けられる方法が研究され、私たちは日常、意識せずにできるだけ疲れにくいよう、筋肉を使わない省エネ歩行をしていることが分かった。筋肉は使わなければ衰え、カロリーは消費されず、血糖値が上がる。次第に、猫背、ひざ曲がり、すり足歩行がはじまり、最終的に自力歩行が困難になる。



歩くことで、歩道の段差や地域の変化など、日常の動きを運動に変えるポイントとは、①かかとから着地(すねの筋肉を使う)②大腿早歩き③正しい歩行姿勢である。歩行姿勢と使った筋肉のメンテナンス方法について、聞いている方に体験してもらった。

域環境の問題点も見えてくる。行政機関に働きかけ、一緒にまちづくりにつなげることができ無理をせず、自分のペースで継続的にウォーキングを実施して、健康維持につなげてほしい。

(地域活動支援センター)

「一万人のエコチェック事業」

「見える化」取り組み4年目を迎える 推進委員への啓発と水平展開が課題

「一万人のエコチェック事業」は、各家庭で省エネに取り組み、電気等の使用量を前年同月分と比較して、その効果を数値として把握＝『見える化』する事業である。当面、公衆衛生推進委員への普及啓発を目標とし、最終的には県民運動として展開し、県全体で二酸化炭素の排出抑制、環境問題に取り組む生活習慣の確立を目的としている。4年目を迎えたこの事業、今年は25市町公衛協が参加した。

今年の実践率は33.6%で、県大会当日に会場であるはつかいち文化ホールさくらびあには3,131枚のカードが集まった。目標とする実践率50%には及ばなかったが、昨年に比べ6.3%向上した。実践率向上の背景には、推進委員への声かけや郵便を利用した回収方法の工夫などが挙げられる。

今年は昨年に比べ気温が高く、省エネの努力がみえにくいと予想していた。しかし、結果は一世帯あたり平均約18kWhの削減となり、成果が数値に現れた。

東日本大震災以降、節電に対する意識や行動は大きく変化し、「エアコンの温度は28℃に設定」

「電気をこまめに消す」の省エネ対策が多い中、今年は「グリーンカーテンをした」「車をやめ、自転車や徒歩にした」など、楽しみながら省エネを実践する人が着実に増えていた。

公衛協によっては独自に「環境家計簿事業」に取り組んでいるところや、対象範囲を広げてはどうかという意見もあり、一般住民への水平展開の必要性和その手法について、地区衛生組織代表者会議などで検討を進めているところである。

来年度もこの事業は継続する予定である。省エネは、これからの地球環境を考えるうえで避けては通れない課題であり、引き続き、皆さまのご協力をお願いする。

(地域活動支援センター)

●1万人のエコチェック事業実践率一覧●

(広島県公衆衛生大会回収時点)

No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率	No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率
1	府中町	98人	47人	48%	14	安芸太田町	48人	12人	25%
2	海田町	95人	28人	30%	15	北広島市	407人	127人	31%
3	熊野町	30人	0人	0%	16	安芸高田市	300人	12人	4%
4	坂町	22人	22人	100%	17	東広島市	1,056人	187人	18%
5	江田島市	167人	66人	40%	18	三原市	400人	24人	6%
6	竹原市	90人	82人	91%	19	世羅町	485人	69人	14%
7	大崎上島町	54人	47人	87%	20	尾道市	342人	135人	40%
8	大竹市	70人	30人	43%	21	福山市	1,183人	639人	54%
9	廿日市市	294人	115人	39%	22	府中市	693人	486人	70%
10	廿日市市大野	624人	141人	23%	23	神石高原町	31人	13人	42%
11	廿日市市佐伯	21人	7人	33%	24	三次市	450人	145人	32%
12	廿日市市吉和	23人	9人	39%	25	庄原市	340人	175人	52%
13	廿日市市宮島	44人	11人	25%	26	呉市	1,959人	502人	26%

【全推進委員数】9,326人
【実践者数】3,131人【実践率】33.6%【電気】1世帯あたりの電気使用量 約523kWh
平均増減量 ⇒ 約18kWh削減